

町中学生代表 広島平和記念式典へ

8月6日、広島平和記念式典へ参加するため、10名の中学生が8月5日～7日まで広島市を訪問しました。81年前の原爆の実相に触れ、被爆者体験談を聞いて、心で感じた貴重な経験をおして、平和への誓いを新たにしました。

佐藤 花鈴（那須中央中1年）

資料館で皮膚が燃えていたり、垂れ下がっていたり、これが本当に広島であったことなのかと目を疑ってしまう写真や絵がありました。教科書では見たことがありましたが、実際に見ると恐ろしかったです。この派遣事業で、話を聞いたたりするのも大事だけど、自分の目で実際に見ることで物事がよく理解できることが分かりました。

池澤 真帆（那須中央中2年）

この3日間で、私は戦争の恐ろしさを改めて確認しました。資料館にあった写真に絵、実物の服や道具、被爆者の方の悲劇の実体験、それらは、原爆の被害の甚大さを物語っていました。しかし、今の広島は、自然が豊かで素敵な都市でした。平和のために何ができるのか自分に問い続けながら、より考えを深めていきたいです。

田尻 虹心（那須中央中2年）

広島派遣に参加して、想像を遙かに越えた残酷な事実を目の当たりにし、目を背けたくありませんでした。しかし、平和を願う人々の思いを聴き、目を逸さず真実を受け止め、戦争がどれだけの人の日常を奪ったのかを伝えていくのが私たちの役割だと思いました。平和な世界を目指すために、私ができることを精一杯やっていきたいです。

東郷 衣千花（那須中2年）

この学びをとおして、実際に見ることが大切だと感じました。広島に行く前に広島について学んで行きましたが、実際に広島に行つて自分の目で見たものと比べると文章などからでは読み取れない被爆者の思いなどを感じることができました。この学びを活かして、これからは知識だけでなく経験も一緒に培っていききたいです。

菊地 桜太（那須中央中3年）

広島に行つて最初に驚いたことは、バスから降りて原爆ドームを見た時に思っていたより大きくて、綺麗な外装をしていたことです。バスのガイドさんが原爆の生き証人と言っていたことが印象的でした。平和記念資料館では、原爆の恐ろしさと戦争の理不尽さを深く知ることができました。実際に見て自分の考えを持つて学ぶ大切さを感じました。

安達 暖大（那須中央中3年）

今回の広島研修では3日間に渡り色々な場所を回りました。資料館では衝撃的な画像や絵を見て戦争の悲惨さについて再認識し、記念式典では総理大臣などの話を聞き、もう一度平和とは何か考えさせられました。そして最終日に他校の生徒と平和について話し合つて理解を深めました。この3日間を今後活かしていきたいです。

高田 征希（那須中央中3年）

広島駅から出た瞬間「本当にここが原爆の落とされた都市なのか」と思うほど都会的な風景が広がっていました。被爆者の方が「話合いで問題を解決する事が大切」と話されていたことが印象に残っています。対立を話し合いで解決していくことで同じ過ちを繰り返さないことに繋がっていくのだと感じました。

三森 大輝（那須中央中3年）

今回の広島派遣では本当に多くの学びと驚きがありました。原爆ドームは自分の想像よりかなり大きく、こんな大きな建物がたった一つの爆弾でここまで壊れてしまうのかと驚きました。広島平和記念資料館では、多くの写真や絵が展示されていて、当時の凄惨さが伝わってきました。今回学んだ事を多くの人に伝えていきたいです。

小山 久翔（那須中3年）

この学習をとおして、広島のことを知

ることができました。さまざまな建物や資料を見て原爆の恐ろしさ、そして平和の尊さを感じました。広島で起きたことを、原爆が落ちたという記憶にするのではなく、このことを二度と起こさないための記憶にして、これから先、自分に何ができるのかを考えていきたいです。

星 悠太（那須中3年）

今回の研修をとおして、原爆の危険性や歴史、使用されてしまった背景等を中心に学ぶことができました。また、研修を進める中で国際情勢や平和について自分なりに考え、自主的に学習の幅を広げることができました。これからも社会に目を向けることで興味・関心の幅を広げ、学習意欲を向上させていきたいと思っています。

▼問合せ 学校教育課

☎ 72・6922



平和記念公園での集合写真